

第1期志摩市創生総合戦略に係る評価（総括）

総括

平成27年度から取り組んでいる第1期の志摩市創生総合戦略は、志摩市人口ビジョンを踏まえて、地方創生として進める政策分野を定め、その基本目標や施策の基本的方向性、具体的な施策をまとめたものであり、その施策数は、当初43事業としていたが、随時見直しを行い、最終的な施策数は合計40事業となっており、個々の事業ごとに設定したKPIは合計88となっている。

第1期志摩市創生総合戦略の個々の事業のKPIの検証結果をまとめると下表のとおりであった。

評価	検証結果	割合
A	目標値を達成し、効果があった。	31.8% (28/88)
B	目標値に達しなかったが、効果があった。	50.0% (44/88)
C	目標値を達成したが、効果はなかった。	1.1% (1/88)
D	目標値に達せず、効果がなかった。	13.7% (12/88)
E	実施していない。	3.4% (3/88)

「目標値を達成し、効果があった。」との結果は31.8%にとどまったが、「目標に達しなかったが、効果があった。」を含めると、全体の80%を超える事業で「効果があった」との評価となった。

一方、志摩市人口ビジョンでは、合計特殊出生率を段階的に向上させ、令和7年に社会減を0とすることで、2060年（令和42年）に30,000人程度の人口を確保することを目指しているが、令和元年度末時点で目標値を2,200人ほど下回っている状況である。（下表参照）

	平成27年	令和2年3月末	令和7年	令和42年
人口ビジョンの目標とする人口	約51,000人	約48,400人 (約46,200人)	約45,000人	約30,000人

() は、住民基本台帳の人口から国勢調査との乖離による補正をして求めた現状値

社会減に関しては、444人（平成27年）から281人（令和元年）と減少しており、一定の成果がでているものの、令和元年度に半減させる目標には届かなかった。このことから、第2期志摩市総合戦略においては、移住・定住の促進に加え、関係人口の創出・拡大など、令和7年の社会減0の目標に向けて、地方移住の裾野を拡大していく取り組みを進めていく。

また、少子化対策の取り組みにも喫緊の課題として取り組んでいく中で、様々な人材の活用を推進し、生産人口の減少など地方創生に向けて解決すべき様々な社会問題に対し、SDGsの理念を踏まえ、Society5.0の実現に向けた未来技術や企業版ふるさと納税の活用により、地方創生の取り組みの一層の充実・深化につなげていく。

1) ひとの育成

基本目標

志摩市の自然・文化・伝統に誇りを持ち、それらの多様性を守り、生かせるひとを育成する。

数値目標

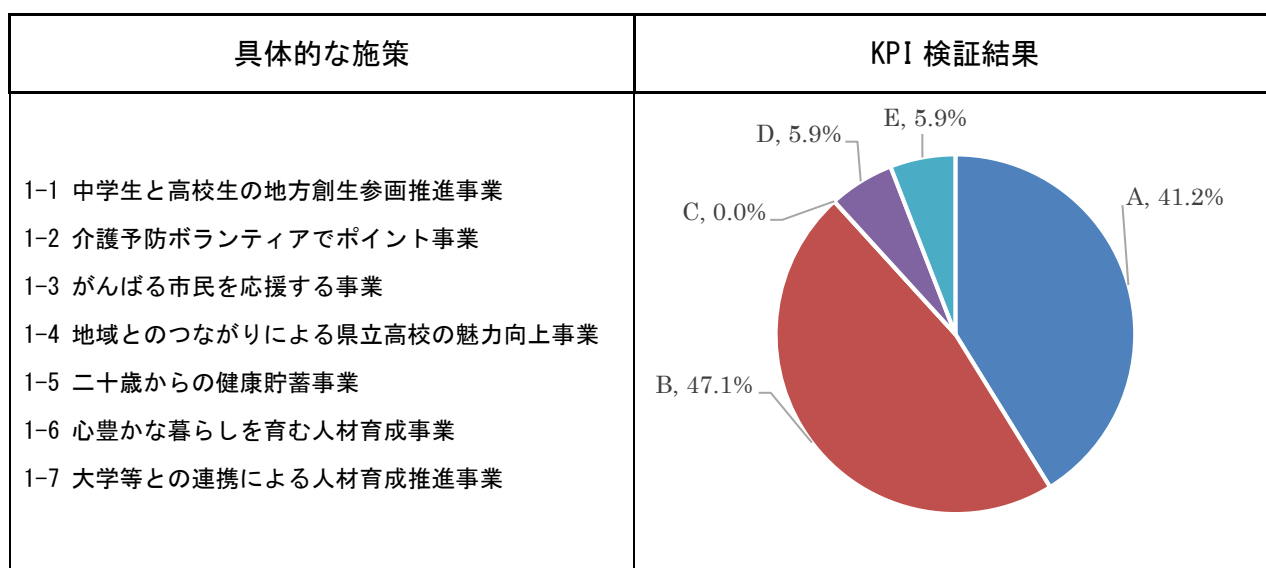
1. 地方創生に参加していると感じている市民の割合が 70%以上
2. 地域に誇りを持てると感じる市民の割合が 80%以上

数値目標に対する評価

項目	数値目標	基準値 (H28)	実績値 (R1)	根拠
1	70%以上	—	9.7%	R1 年度アンケート調査
評価	地方創生は市民や民間事業者の方々に自主性や主体性を発揮していただく必要があるが、まだまだ浸透していない状況である。 具体的な施策の各事業に関わる市民の数を増やしていくことや、その事業に関わった市民の満足度等を向上させることなどが必要である。			

項目	数値目標	基準値 (H28)	実績値 (R1)	根拠
2	80%以上	70.6%	72.5%	H28・R1 年度アンケート調査
評価	数値目標には至らなかったが、基準値に対しての向上が見られることから、総合戦略の「ひとの育成」に係る事業のみならず、他の政策分野に係る事業をはじめ、他の行政施策や企業活動など幅広く周知していく取組みが必要である。 また、中学生や高校生への啓発など効果が表れるまでに時間を要する事業については、継続的な取組みが必要である。			

具体的な施策の検証結果



No	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	評価
1-1	中学生と高校生の地方創生参画推進事業	全ての中学校で地方創生に関する説明会	A
		地域に誇りを持つ生徒の割合と将来は地域に暮らしたいという生徒の割合	A
1-2	介護予防ボランティアでポイント事業	地域支援ボランティアとして活動する人の数	B
		ボランティア活動に参加した年間の通算人数	A
1-3	がんばる市民を応援する事業	助成事業による年間の資格取得者数	B
		奨励事業による指定資格の取得者数	B
		資格取得者のネットワーク	E
1-4	地域とのつながりによる県立高校の魅力向上事業	地域と高校で魅力向上のための対策が検討されている	A
		両校の生徒が活躍する機会	A
		インターンとして生徒を受け入れてくれる事業者の数	A
1-5	二十歳からの健康貯蓄事業	定期的に健康診査を受けようと思う人の割合	A
		健康診査の受診者に占める再受診の割合	B
1-6	心豊かな暮らしを育む人材育成事業	考案されたライフスタイルの数	D
		心豊かな暮らし方の実践に向けた取り組みの数	B
1-7	大学等との連携による人材育成推進事業	志摩市を活用した大学生等の人数	B
		交流会の開催回数	B
		地域課題解決に向けた提案件数	B

2) ひとの確保

基本目標

地域社会と地域の産業を楽しみながら支えて担う、多彩な人材を地域内外から確保する。

数値目標

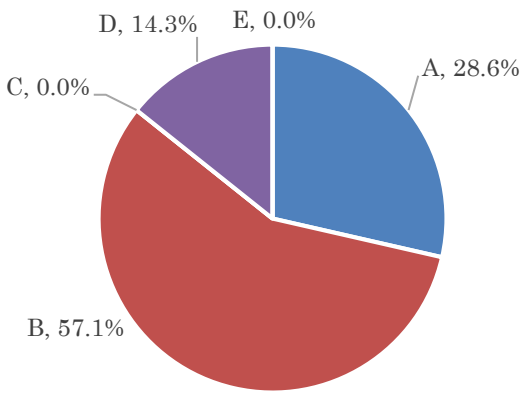
1. 志摩市の「まち・ひと・しごと創生」でつながった人材が 300 人以上
2. 社会減を半減させる

数値目標に対する評価

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (R1)	根拠
1	300 人以上	0 人	577 人	1-6 (職員 WS : 14 人、市民 WS : 21 人)、2-1 (若者 WS : 16 人)、2-2 (女性 WS : 10 人)、3-2 (交流会 : 7 人)、3-3 (参加者数 : 延べ 509 人) ※WS : ワークショップ
評価	数値目標を達成し、成果があったと考えられる。 今後、地方創生でつながった人材から新たな事業等の創出が図られるような工夫が必要である。			

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (R1)	根拠
2	社会減を半減	△444 人	△281 人	H27・R1 (人口動態統計) (444-281) ÷ 222※ ≒ 73.4% ※△444 人を半減 : △222 人 達成比率 : 73.4%
評価	目標には及ばない状況であるが、一定の効果があった。 令和 7 年の社会減 0 を目指し、更なる取り組みが必要である。			

具体的な施策の検証結果

具体的な施策	KPI 検証結果
2-1 若い女性が暮らしやすい志摩づくり事業 2-2 移住しやすい志摩づくり事業 2-3 水産業の担い手受け入れ推進事業 2-4 IJU（移住）ターン促進のための奨学金返済補助事業 2-5 若者の集いと出会いの支援事業 2-6 家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業 2-7 若者世代の移住促進事業 2-8 農業の担い手受け入れ推進事業	 <p>D, 14.3% E, 0.0% C, 0.0% A, 28.6% B, 57.1%</p>

No	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	評価
2-1	若い女性が暮らしやすい志摩づくり事業	検討結果の普及啓発を行った回数	A
		改良または設計された施策の件数	B
2-2	移住しやすい志摩づくり事業	情報提供や支援体制に対する移住希望者の満足度	D
		支援体制に協力してくれる移住者の数	B
2-3	水産業の担い手受け入れ推進事業	若者を受け入れる条件が整理された漁業集落の数	B
		若者を受け入れた漁業集落の数	B
2-4	IJU(移住)ターン促進のための奨学金返済補助事業	制度を利用した人の数	B
2-5	若者の集いと出会いの支援事業	支援したイベント等で集った若者の数	A
2-6	家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業	リノベーション助成を利用して移住した件数	A
		リフォーム助成を利用して移住した件数	B
2-7	若者世代の移住促進事業	制度を利用して移住した件数	A
2-8	農業の担い手受け入れ推進事業	生産指導を行う既存の農業者(個人又は団体の数)	B
		新たに農業に従事した者の数	B
		生産量が増加した農産物の数	D

3) まちの発見

基本目標

志摩市の自然や産業、地域ごとの特性や風習など、あらゆる観点で志摩市の長所や短所を見つめなおし、志摩市の魅力の再認識を促す。

数値目標

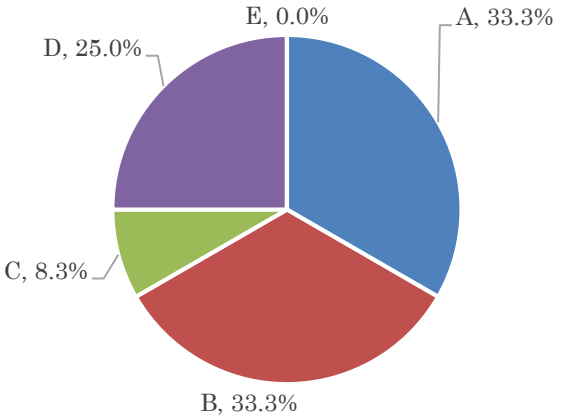
1. 志摩市の「まち・ひと・しごと創生」を通じて内外に魅力を発信した件数が 100 件以上
2. 志摩市の魅力が語れる市民の割合が 80%以上

数値目標に対する評価

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (R1)	根拠
1	100 件以上	—	189 件	1-4 (35 回)、2-2 (動画 3 本)、3-1 (66 件)、3-2 (61 件)、3-3 (8 回)、3-5 (11 回)、6-2 (5 件)
評価	<p>広報やホームページ、イベントなどにより、各種の情報発信を行い、目標達成に至った。</p> <p>今後も効果的で継続した取り組みが必要である。</p>			

項目	数値目標	基準値 (H28)	実績値 (R1)	根拠
2	80%以上	68.9%	66.4%	H28・R1 アンケート調査
評価	<p>数値目標には至らなかったが、基準値に対しての向上が見られた年度もあった。今後は、地方創生のみならず、他の行政施策や企業活動など幅広く周知していく取り組みが必要である。</p> <p>また、小中学生などへの郷土学習など効果が表れるまでに時間を要する事業については、継続的な取り組みが必要である。</p>			

具体的な施策の検証結果

具体的な施策	KPI 検証結果
3-1 志摩市ホームページの魅力向上事業 3-2 きらり志摩びと紹介事業 3-3 地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業 3-4 農産物の生産実態把握事業 3-5 志摩市の食材を活かした食育推進事業	 <p>A pie chart illustrating the distribution of KPI verification results. The chart is divided into five segments: A (blue, 33.3%), B (red, 33.3%), C (green, 8.3%), D (purple, 25.0%), and E (grey, 0.0%).</p>

No	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	評価
3-1	志摩市ホームページの魅力向上事業	HP の年間アクセス数	A
		HP への市民による年間投稿件数	B
		HP が見やすいと答えた人の割合	B
3-2	きらり志摩びと紹介事業	番組や広報紙等で紹介した人や団体の数	A
		番組や広報紙等を見た市民の割合	B
		番組や広報紙等で紹介した人々のネットワーク	C
3-3	地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業	プラットフォームに参加している人の数	A
		プラットフォームを通じて生み出された協働の数	D
3-4	農産物の生産実態把握事業	調査に協力してくれた人の割合	D
		生産量及び生産額、並びにそれらの物流の把握	D
3-5	志摩市の食材を活かした食育推進事業	学校給食における地場産物の活用状況	B
		生産者交流会の実施回数	A

4) しごとの強化

基本目標

志摩市の産業生産及び雇用を支える産業などを中心に、独自のアイデアと努力によって、従業員の数や所得を増やす事業者や生産者を増やす。

数値目標

1. 観光消費額が 10%以上向上
2. 観光関連産業で提供される商品の域内調達率が 70%以上
3. 一次産業に従事する人の数が 2,500 人以上

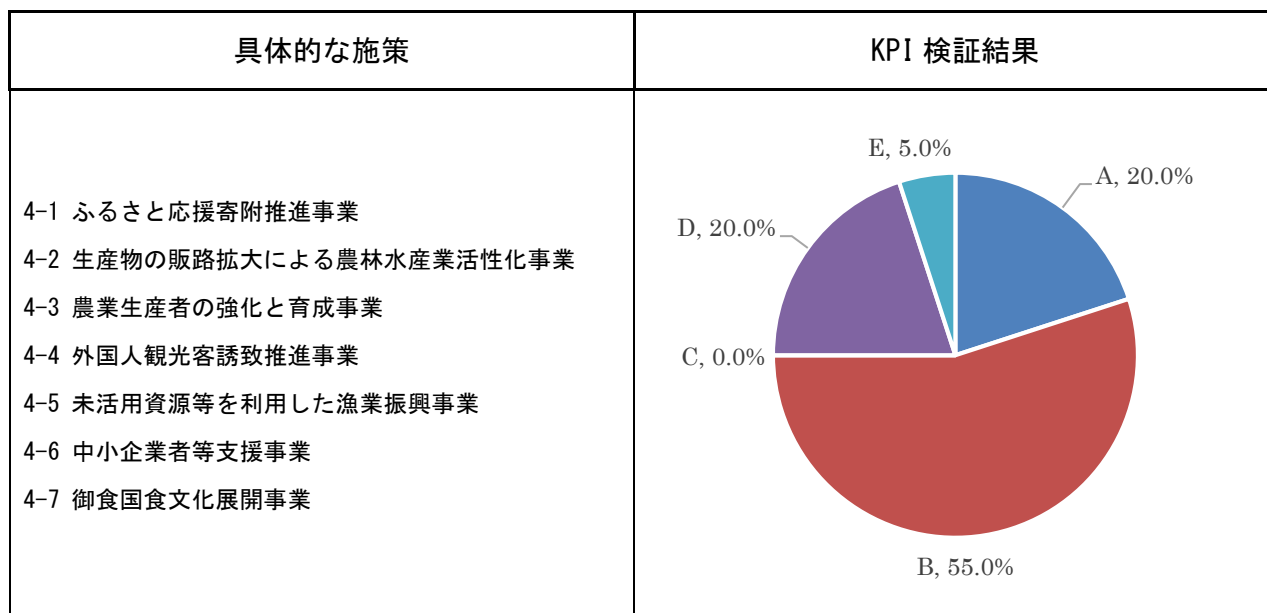
数値目標に対する評価

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (R1)	根拠
1	10%以上 向上	宿泊者：34,280 円 × 1,422,163 人 = 48,751,747,640 円 日帰り客：8,508 円 × 2,305,689 人 = 19,616,802,012 円 合計 (A)： <u>68,368,549,652 円</u> (100%)	宿泊者：32,117 円 × 1,514,463 人 = 48,640,008,171 円 日帰り客：8,445 円 × 2,672,683 人 = 22,570,807,935 円 合計 (B)： <u>71,210,816,106 円</u> (104.2%)	三重県観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書 (伊勢志摩) 志摩市観光統計 $(B \div A) \div 100 = 104.2\%$ $104.2 - 100 = 4.2\%$
評価	<p>プラスに転じたものの、目標値には達していない。あくまでも推計値ではあるが、宿泊者の合計消費額に対して日帰り客の合計消費額は伸びている状況がうかがえる。</p> <p>交流人口や関係人口を増やし、宿泊者や特に経済効果が大きいとされる外国人旅行者等の集客を促すなど、地域の活力を維持できるような施策が必要である。</p>			

項目	数値目標	基準値 (H25)	実績値 (未定)	根拠
2	70%以上	61.7%	—	地域経済分析システム (地域経済循環率) (H25 : 61.7%)
評価	<p>国の地域経済分析システム (RESAS) では、環境省の地域産業連関表、地域経済計算を基に作成されており、地域内の経済循環の比率は平成 25 年が最新データであることから、これ以降のデータが公表され次第評価したい。</p> <p>市内の地域資源を最大限に活用し地域内経済を循環させる取り組みを進め、持続可能な地域づくりにつなげていくことが必要である。</p>			

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (R2)	根拠
3	2,500 人以上	2,084 人	—	国勢調査 (H27 : 2,084 人) 農協組合員数 (H27 : 12,481 人・H30 : 11,956 人)、漁協・真珠正組合員数 (H27 : 1,446 人・H30 : 1,208 人) 減少率 : $(11,956 \text{ 人} + 1,208 \text{ 人}) \div (12,481 \text{ 人} + 1,446 \text{ 人}) \doteq 94.52\%$ 参考値 : $2,084 \text{ 人} \times 94.52\% \doteq 1,970 \text{ 人}$
評価	<p>国勢調査では、平成 27 年が最新データであり、次回の調査は令和 2 年となる。次回調査の結果が公表され次第評価したい。</p> <p>しかしながら、参考値として、農協組合員数、漁協・真珠正組合員数の減少から、数値目標に達していないことが推測される。</p> <p>一次産業の後継者育成に向けた事業の継続が必要である。</p>			

具体的な施策の検証結果



No	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	評価
4-1	ふるさと応援寄附推進事業	年間の経済波及効果	B
		最初に返礼品を出荷した年に比べてふるさと応援寄附の返礼品の出荷が原因で、事業者の取り扱う商品が増加している事業者の割合	B
4-2	生産物の販路拡大による農林水産業活性化事業	ニーズを踏まえて販路拡大に取り組んだ生産物の数	A
		販路が拡大できた生産物の数	B
4-3	農業生産者の強化と育成事業	生産量と生産額を増やした農業生産者の数	A
		制度を活用した農業生産者でインターン等の若者を受け入れた数	D
		認定農業者数の減少率	B
		安定的な営農モデルの公表数	E
4-4	外国人観光客誘致推進事業	外国人観光客数	B
		外国人観光客に占める東南アジアからの観光客の割合	B
		外国人観光客に占める欧米からの観光客の割合	A
		地域連携 DMO の構築	A
4-5	未活用資源を利用した漁業振興事業	未活用資源として定めた水産物を対象に資源管理型の漁業等を試行した件数	B
		試行で得られた水揚げ高	B
4-6	中小企業者等支援事業	商談会等に出展し、新しい販路を開拓した事業者の数	B
		商談会等に出展し、新規需要開拓に向け商談成立となった事業者数	B
		利子補給補助制度を活用した事業者数	B
4-7	御食国食文化展開事業	歴史や食文化を活かした農林漁業や観光業を活性化するための戦略	D
		スタディツアー(学びのプログラム)の構築数	D
		後継者確保に向けて動きだした事業者数	D

5) しごとの創出

基本目標

地域の資源とニーズを見出し、これまでにない観点による起業や異業種間の連携をおこして、小さな規模でも利益を生み出す事業者や生産者を増やす。

数値目標

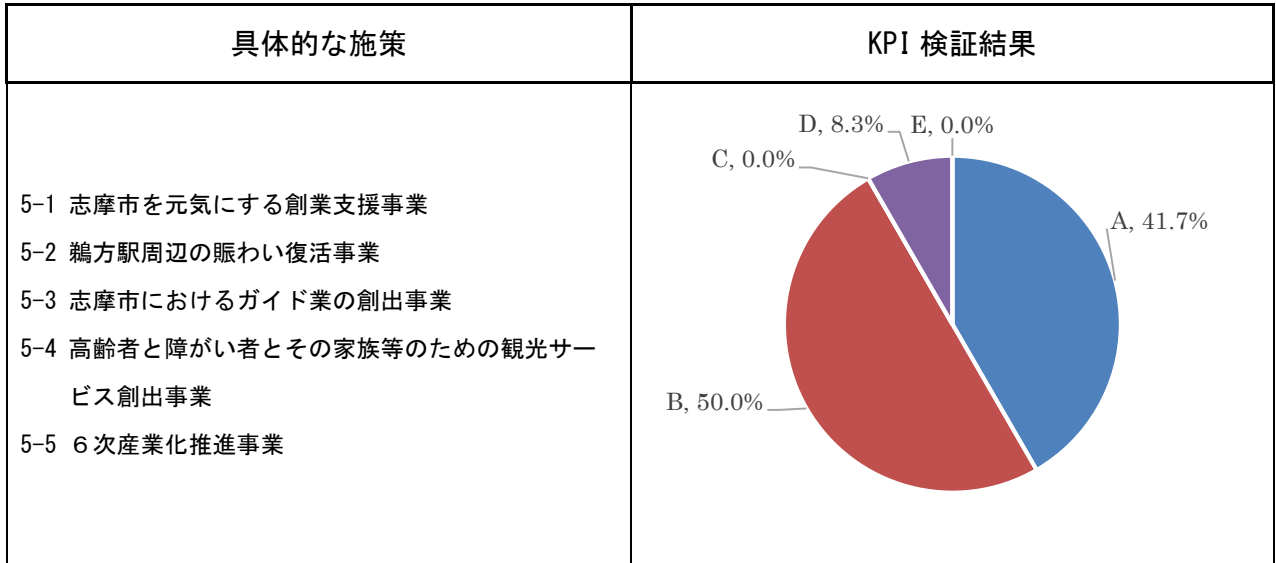
1. 人口に占める就業率を向上させる
2. 起業した事業者数と異業種間連携した事業者数が合計で 30 者以上（起業は 8 者以上）

数値目標に対する評価

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (R2)	根拠
1	就業率 向上	52.99%	—	国勢調査 (H27 : 52.99%)
評価	<p>国勢調査では、平成 27 年が最新データであり、次回の調査は令和 2 年となる。次回調査の結果が公表され次第評価したい。</p> <p>創業や起業を促す施策は継続した取り組みが必要である。</p>			

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (H30)	根拠
2	30 者以上 (起業は 8 者以上)	—	11 者 (11 者)	5-1 (9 者)、5-3 (1 者)、5-5 (1 者) ※全て起業
評価	<p>異業種間連携についての実績はなかったが、起業については目標値を達成することができた。起業については雇用の確保につながり今後も継続した取り組みが必要であり、異業種間連携については、地域内経済の循環も視野に入れた取り組みが必要である。</p>			

具体的な施策の検証結果



No	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	評価
5-1	志摩市を元気にする創業支援事業	審査を行った件数	B
		創業等を実現した件数	A
		クラウドファンディング活用支援補助制度を利用し実施した地域の活性化に資する事業数	B
5-2	鵜方駅周辺の賑わい復活事業	鵜方駅周辺の店舗利用者数	D
		鵜方駅周辺に活気を感じる人の割合	B
		鵜方駅周辺で新たに経営を始めた事業者数	A
5-3	志摩市におけるガイド業の創出事業	ガイド業で収入を得る人の数	B
		ガイドツアーを専門に扱う事業者数	A
5-4	高齢者と障がい者とその家族等のための観光サービス創出事業	高齢者や障がい者の観光を支援するサービスの構築	A
		高齢者や障がい者の観光を支援するサービス業に参画する事業者の数	B
5-5	6次産業化推進事業	6次産業化に新たに参入した事業者の数	A
		6次産業化により利益が増えたと感じる人の割合	B

6) まちの形成

基本目標

地域の特性を生かしつつも過去の慣習にとらわれずに、小さな地域の存続に向けて活動する市民と民間事業者を増やし、そうした小さな地域間を人をつなげて、志摩市に暮らしやすさを感じる市民を増やす。

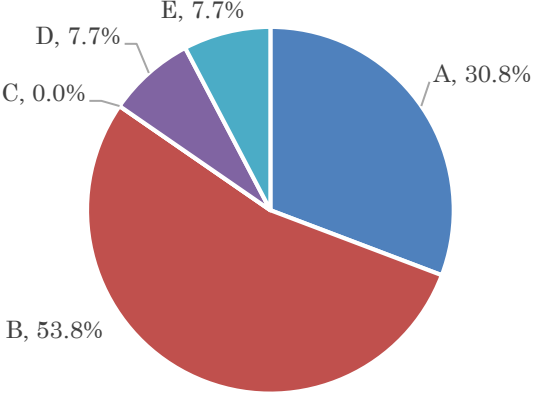
数値目標

1. 多様な主体が連携して地域づくりを進めている地域が 10 地域以上

数値目標に対する評価

項目	数値目標	基準値 (H27)	実績値 (H30)	根拠
1	10 地域	1 地域	14 地域	1-6 (1 地域)、5-2 (1 地域)、6-2 (1 地域)、6-3 (3 地域)、6-4 (5 地域)、6-5 (3 地域)
評価	数値目標に対して実績値は達成できた。 特に地域の特色を生かした事業や地域課題の解決につながる事業については、継続が必要である。			

具体的な施策の検証結果

具体的な施策	KPI 検証結果
6-1 伊勢志摩国立公園の魅力向上事業 6-2 賢島の魅力発信力向上事業 6-3 地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業 6-4 地域の魅力を見つけて生かす観光まちづくり事業 6-5 生活拠点づくり事業 6-6 これからの志摩市の地域交通検討事業 6-7 子どもの医療費がかからないまちづくり事業 6-8 市民や民間事業者による地域をおこすまちづくり支援事業	 <p>A, 30.8% B, 53.8% C, 0.0% D, 7.7% E, 7.7%</p>

No	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	評価
6-1	伊勢志摩国立公園の魅力向上事業	参加する市民の数	B
		国立公園のなかで暮らしているということを意識している市民の割合	D
6-2	賢島の魅力発信力向上事業	賢島に関わる事業者の連携と創意工夫で取り組まれた事業数	A
		賢島を訪れる観光客のうち志摩市の魅力を感じてもらえた方の割合	A
6-3	地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業	地域の特色を生かしたスポーツ振興に取り組む地域の数	B
6-4	地域の魅力を見つけて生かす観光まちづくり事業	観光まちづくりに取り組む地域の数	A
		参画する主体のうち、観光客や観光客とふれあう機会の増加を実感している人の割合	E
6-5	生活拠点づくり事業	住民が主体となって地区の課題解決に取り組む地区の数	B
6-6	これからの志摩市の地域交通検討事業	将来に向けた有効な地域交通のあり方として提案する件数	B
6-7	子どもの医療費がかからないまちづくり事業	制度を利用している中学生の割合	A
		制度利用世帯に占める経済負担が軽減したと感じた割合	B
6-8	市民や民間事業者による地域をおこすまちづくり支援事業	支援申請をした事業者等の数	B
		事業に着手した補助対象事業の数	B